

令和6年度

自己評価報告書

令和7年3月

横浜市病院協会看護専門学校

I 学校の現況

本校は、横浜市内の約8割の病院が加盟する、公益社団法人横浜市病院協会が、横浜の医療ニーズに対応できる質の高い看護師を育てるために、平成7年4月に設立した3年課程の看護専門学校です。

高度医療に対応した知識・技術の獲得と豊かな人間性を育むことを大切にし、これまでに約 2,000 人の優秀な人材を横浜市内の医療現場に送り出しています。

教育課程の3分の1を占める臨地実習は、横浜市内の高水準の医療・看護を実践している病院や、地域において中核的な役割を担っている病院、在宅医療を支える訪問看護ステーションなど充実した施設に恵まれています。

定員は、1学年 80 名 2クラス制で、総数 240 名となっています。令和6年4月5日入学式時点の在籍者数は、239 名です。また、令和6年度卒業生の看護師国家試験合格率は 97.3%で、病院に就職した 98.6%の卒業生が横浜市内に就職しています。

II 基本方針

(1)教育理念

地域のニーズに対応し、地域住民の保健・医療・福祉の向上に貢献することはもとより、人との関わりを大切にし、あらゆる人々の健康と幸福のために援助できる豊かな人間性と、行動力を備えた看護師を育成します。

(2)教育目標

- 1 人間を身体的、精神的、社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を身につけている。
- 2 生命の尊さを認識し、倫理に基づいて行動する力を身につけている。
- 3 多様な価値観を認め、援助的人間関係を築くためのコミュニケーション力を身につけている。
- 4 科学的根拠に基づいた、看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を身につけている。
- 5 健康の状態に応じて、看護を実践するために必要な基礎的能力を身につけている。
- 6 地域共生社会における看護職の役割を理解し、多職種と協働するための基礎的な能力を身につけている。
- 7 看護専門職としての資質向上を図るために、継続して自己研鑽する力を身につけている。

(3) 本校が求める学生像

- 1 人に対する関心や思いやりを有している人。
- 2 他者との人間関係を築くための基礎的なコミュニケーション能力を有している人。
- 3 看護を学ぶための基礎学力をもち自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人。
- 4 看護職として、横浜市の保健・医療・福祉に貢献したいという意志を有している人。

Ⅲ 自己評価について

- 1 教育理念・目標・育成人材像
- 2 学校運営
- 3 教育活動
- 4 学修成果
- 5 学生支援
- 6 教育環境
- 7 学生の募集と受入れ
- 8 財務
- 9 法令等の遵守
- 10 社会貢献・地域貢献

Ⅳ 自己評価結果(評価基準:不適切…1 やや不適切…2 ほぼ適切…3 適切…4)

【経過】

自己点検・自己評価については、平成16年に文部科学省によって専修学校設置基準等が改正され、その結果を公表する努力義務が課せられました。

本校においては、校内に「自己点検・自己評価委員会」を設置し、平成17年に学生を対象に、平成18年に教職員を対象にアンケートを実施し、教育目的・教育目標にそった教育活動がなされているか、点検・評価を試みました。

平成20年3月に「看護教育自己評価指針」を基に本校独自の調査項目を設定し、点検・評価を行いました。平成23年3月に「看護師養成所の運営に関する指導要領の一部改正」により、自己評価が義務化されました。本校は、平成23・24年に評価委員会組織を再編し点検・評価に取り組み、その成果として第三次報告として「学校評価報告書 第1号」を平成25年5月に刊行しました。

第四次報告から明らかにされた改善点を意識して取り組みを重ねて、検討組織を「学校評価委員会」に改名し、点検・評価活動の成果を、第五次報告として「学校評価報告書 第2号」を平成29年7月に刊行しました。

そして、令和2年度に、初めて外部委員を招いての「学校関係者評価委員会」を設置し、自己点検・自己評価に基づき検討を行っていただき「自己評価報告書」をまとめ公表しました。毎年度、各委員からのご意見をいただき、まとめたものを報告書として公表しました。また、校内に教職員で設置している委員会、外部委員からいただいた意見等を踏まえた検討を行い、より適正な学校運営に向けて改善を図っています。

【総括と課題】

令和2年度より「高等教育の修学支援新制度」の対象校となることを機に、自己点検・自己評価の項目を見直し、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構「学校評価ハンドブック 専門学校等評価基準 Ver.4.0」により、小項目65項目のうち本校に該当する小項目62項目(大項目10項目、中項目37項目)について点検・評価を実施しました。

令和6年度の総合評価は、昨年度と同じ「3.6」ポイントで、ほぼ適切に運営できているという評価となりました。評価に関しては、令和5年度と比較すると、62項目中、プラスが22項目、マイナスが22項目となりました。評価の変動要素としては、新型コロナが5類に移行して通常の状態に戻りつつあること、また、少子化の進展に伴い、各種問題点が顕著になってきていることの影響と考えます。

「教育理念・目的・育成人材像」については、「教育理念」を「学生便覧」「学習要綱」に明記し、学生全員に配付し周知を図っています。

「学校運営」については、本校の運営方針を「学生便覧」「学習要綱」等に記載し、教職員で確認するとともに、学生にガイダンス等で周知を図っています。

「教育活動」については、令和4年度のカリキュラム再編成から3年が経過し、新カリキュラムの教育理念・目的・目標が学生・教員に浸透し、着実に運用されています。また、ICTを活用した学習環境も整備され、電子教科書やタブレット端末などを活用した授業が行われています。模擬カルテを用いた様々なシミュレーションやロールプレイなどのアクティブラーニングが積極的に導入され、チーム医療における協働意識の向上が見られました。また、実習評価ではルーブリック評価を取り入れることで学生の主体性を引き出し、学生・教員の評価を講師連絡会議、実習施設連絡会議などで共有することで、改善に活かしています。

「学修成果」については、看護師国家試験合格率は97.3%、市内医療機関への就職率は98.6%と前年同となりました。「卒業生動向調査」の結果、1年以内の離職率は4.2%と全国平均10.2%を下回っています。

「学生支援」は、進路ガイダンスを実施するとともに、本校独自の取組みとして、51の会員病院が参加した病院説明会を実施しました。また、経済的支援として、本校独自の病院協会の奨学金(上限7万円/月)を実施するとともに、専門実践教育訓練校の指定を受けています。

「教育環境」については、3年度に実施した老朽化調査及び中長期保全計画策定に基づいて、4年度から施設設備改修等工事を進め、空調設備の一新、調理実習室を研修室に改装するとともに、多目的トイレを設置するなどをを行い、昨年度で完了しました。

「学生の募集と受入れ」については、「学校案内」「募集要項」を作成し、県内高校等へ送付し、配付しています。学校説明会等を8回開催、また、個別の説明会も実施し、計343人の方に参加をいただきました。さらに、県内26校の高校を個別に訪問しました。受験生確保に向けて、社会人向けに、募集要項等をハローワークや男女共同参画センターなどで配布しました。この結果、受験者は前年度の102名から86名と減少しましたが、入学者は、定員の80名を確保することができました。

「財務」については、定員の入学生を迎えることで予算どおりの歳入を確保し、施設設備の老朽化、長期保全に関する負担増はありましたが、決算等総会で適正とされました。「法令等の遵守」については、前年度同の「3.8」となり、ほぼ適切との評価を受けました。これからも適切な学校運営を推進するとともに、時代

大項目	6年度	5年度	差引
教育理念・目的・育成人材像	3.6	3.7	▲0.1
学校運営	3.5	3.6	▲0.1
教育活動	3.7	3.6	0.1
学修成果	3.7	3.5	0.2
学生支援	3.5	3.5	0.0
教育環境	3.4	3.3	0.1
学生の募集と受入れ	3.6	3.7	▲0.1
財務	3.7	3.7	0.0
法令等の遵守	3.8	3.8	▲0.2
社会貢献・地域貢献	3.6	3.8	▲0.2
計	3.6	3.6	0.0

の要請に合わせた規程等の制定、見直しを積極的に実施し、学生にとって学びやすい環境を整えていきます。

「社会貢献・地域貢献」については、近隣の会員病院や団体などが本校施設を行事や活動の場として利用しています。また、学生が、近隣の施設や実習病院の要請に応じてボランティア参加しました。横浜マラソンでは21名の学生が救護ボランティアとして参加しています。一部の教員は、横浜市老人福祉センターや県ナースセンターの講師となって活動しました。

【今後の改善方策】

少子化の影響により、高等学校の卒業生数そのものが減少してきているようです。こうした中で、看護を目指す学生も減ってきているのが現状です。そのため、社会人の中で、あらためて看護の世界を目指そうとする人々に対して、看護師という仕事に対する魅力をPRするとともに、看護師国家試験合格を目指すための学びの場としての本校の魅力をアピールすることが必要です。加えて、少子化が学力レベルへ与える影響についても考慮し、学んでいる学生の学力や人間力を引き上げていく工夫が必要になってきています。横浜市内に優秀な医療人材を輩出してきた本校の存在をアピールし、これからも維持、向上させるために、教育理念を踏まえた、看護師養成を続けていきます。

1 教育理念・目標・育成人材像

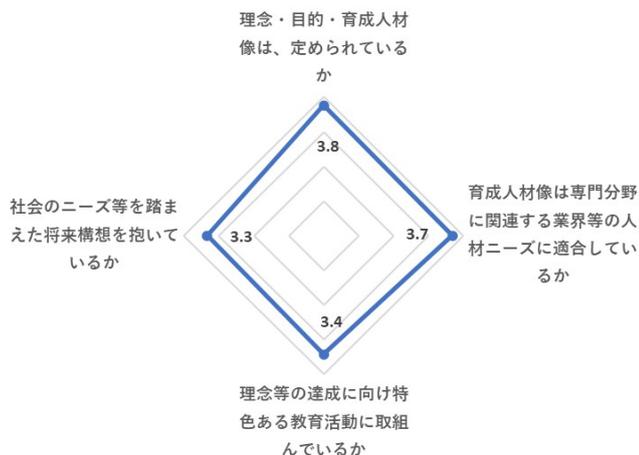
【総括(実施内容)と課題】

教育理念は、「学生便覧」「学習要綱」に明記し、学生全員に配付し周知を図っています。

令和4年度に改正したカリキュラムでは、「教育ビジョン」「教育理念」「教育目的」「教育目標」の見直しを行い、「教育ビジョン」を「アドミッションポリシー」「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」として明文化しました。

本校は、横浜市病院協会が運営主体ということもあり、臨地実習として、20病院、30施設等にご協力をいただき、必要な人材ニーズに関する共有化を図っています。

評価としては、一部が0.2ポイント下がっていますが、引き続き、新カリキュラムで明文化したビジョン、理念、目的、目標を教職員全員へ理解を深める取り組みと浸透を進める必要があると考えます。



【今後の改善方策】

社会の動向や保健・医療・福祉のニーズの変化に対応した、カリキュラム改正の背景と目的を踏まえ、新カリキュラムを円滑に実践していくために、教職員の共通理解と情報共有を図る必要があります。そのためにも、わかりやすい表現で、様々な媒体で発信することが大切だと考えます。また、新たな学習方法について、学校から地域への情報発信や、地域に本校を利用していただくなど、本校を地域に知っていただく工夫に更に取り組みます。

新カリキュラムの多職種連携など「地域と暮らし」において、医療も介護も必要な人が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために何が必要であるか考える教育に取り組んでいきます。

さらに、優秀な入学生の募集にも工夫と新たな取り組みを考えていきます。

中項目	小項目(指標)		評価
理念・目的・育成人材像	1	理念・目的・人材育成像は定められているか	3.8
	2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3.7
	3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.4
	4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3.3
平均			3.6

2 学校運営

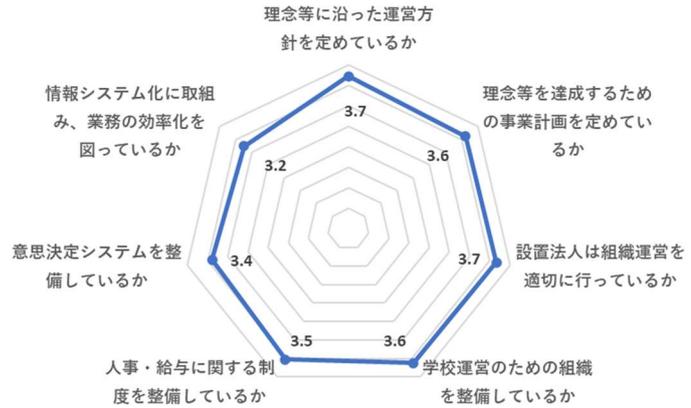
【総括(実施内容)と課題】

本校の運営方針は、「教育ビジョン」「教育理念」「教育目標」「育てたい学生像」を「学生便覧」「学習要綱」等に記載し、教職員で確認するとともに、学生にはガイダンス等で周知を図っています。

また、事業計画及び予算については、毎年度、学校運営会議で策定し、理事会で承認を得たうえで取組んでいます。

教員組織においては、学年主任制を導入するとともに、給与規則の大改定を行いました。

情報システムについては、ICT の効率的、効果的な活用を図るために、Wi-Fi 環境の整備等とともに全学年利用となるタブレット端末による電子教科書の導入などに取組んでいます。



【今後の改善方策】

学校運営に関する全体的な評価は、昨年度から0.1ポイント下がりましたが、迅速な意思決定や円滑な学校運営が概ねできています。令和5年度に行った給与の大改定以降も、社会情勢に合わせた、運営組織の見直しや、規則・規定等の見直しを積極的に行っていきます。

情報システムの取組みについては、PC の更新やネットワーク環境の整備を進めてきましたが、安定稼働とともに、今後も、学生の効率的・効果的な学習が可能ないように進めていきます。

中項目	小項目(指標)		評価
運営方針	5	理念等に沿った運営方針を定めているか	3.7
事業計画	6	理念等を達成するための事業計画を定めているか	3.6
運営組織	7	設置法人は組織運営を適切に行っているか	3.7
	8	学校運営のための組織を整備しているか	3.6
人事・給与制度	9	人事・給与に関する制度を整備しているか	3.5
意思決定システム	10	意思決定システムを整備しているか	3.4
情報システム	11	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3.2
平均			3.5

3 教育活動

【総括(実施内容)と課題】

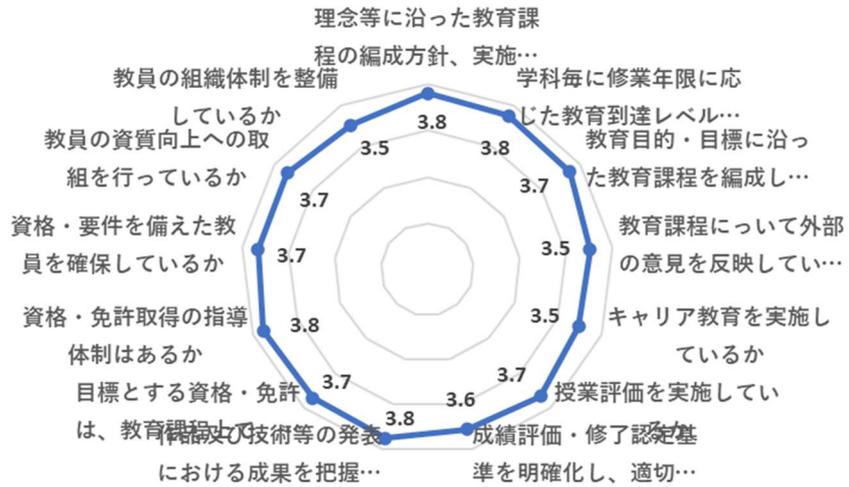
カリキュラム改正から3年が経過し、新カリキュラムの教育理念・目的・目標が学生・教員に浸透し、着実に運用されています。

「地域に暮らす人々」や「多職種協働」への理解を促す内容が展開され、教育目標に沿った成果が見られます。また、ICTを活用し

た学習環境も整備され、電子教科書やタブレット端末、学習支援プラットフォームを活用した授業が行われています。模擬カルテを用いた様々なシミュレーションやロールプレイなど、アクティブ・ラーニングも積極的に導入されています。実習経験を通して「コミュニケーション力」や「臨床判断能力」、「チーム医療における協働意識」の向上が見られました。

授業評価は評価計画を明示し、学習内容に応じて公平に実施。ルーブリック評価を活用することで学生の主体性を引き出し、学生・教員の評価を講師連絡会議や実習施設連絡会議で共有し、改善に活かしています。卒業時には「看護技術の経験と到達度に関する自己評価」を実施し、個々の習熟度の把握に役立っています。

成績評価は学則・規程に準拠し、学生便覧を通じて明確に説明。国家試験の合格率は97.3%で全国平均を上回り、不合格者には担当教員を配置して支援を実施。教員体制は常勤18名、非常勤3名で構成され、全体評価は0.1ポイント上昇しました。



【今後の改善方策】

教育活動の質をさらに高めるため、各教科の目標達成状況を継続的に評価し、効果的なカリキュラム運営を図ります。学力の二極化に対応するため、教授内容の精選や教育手法の工夫が求められており、LMSの導入や低学年からの個別指導体制の構築が重要です。また、ICT機器や模擬電子カルテの活用効果の検証、科目評価の学生へのフィードバックの方法の改善を図ります。

実習では、実習指導要綱の整備、ルーブリック評価の見直しを継続し、指導者間で目標や評価基準を共有します。国家試験に向けては、早期支援体制を強化し、学内講義や模擬試験等を通じて100%合格を目指します。さらに、教員の資質向上に向け、校内外の研修や学会参加を積極的に推進し、教育力の維持と向上を図ります。

中項目	小項目(指標)		評価
目標の設定	12	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3.8
	13	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3.8
教育方法・評価等	14	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3.7
	15	教育課程について外部の意見を反映しているか	3.5
	16	キャリア教育を実施しているか	3.5
	17	授業評価を実施しているか	3.7
成績評価・単位認定等	18	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3.6
	19	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3.8
資格・免許の取得の指導体制	20	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3.7
	21	資格・免許取得の指導体制はあるか	3.8
教員・教員組織	22	資格・要件を備えた教員を確保しているか	3.7
	23	教員の資質向上への取組を行っているか	3.7
	24	教員の組織体制を整備しているか	3.5
平均			3.7

4 学修成果

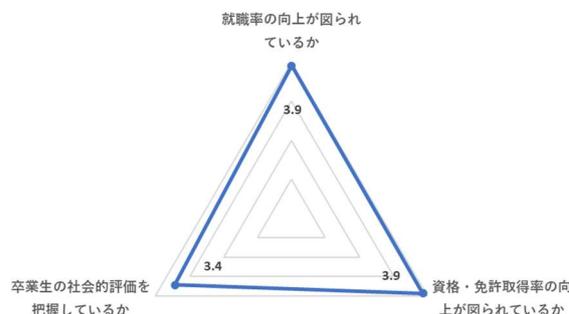
【総括(実施内容)と課題】

看護師国家資格を取得し、横浜市の保健・医療に貢献する看護師を養成することが本校の使命です。看護師国家試験合格率は5年度97.3%、6年度97.3%であり、就職した卒業生は5年度と同じく、98.6%が横浜市内の医療機関に就職しました。

また、卒業時、ディプロマポリシーの達成度の自己評価を実施するとともに、卒業生動向調査により、卒業生の状況把握を行っています。

卒業生の1年以内の離職率は4.2%で、全国平均10.2%よりも下回っています。就職に向けては、1年生からキャリア教育の一環として、進路ガイダンスを実施し、自分に合った就職先選びができるようにしています。

また、横浜市病院協会会員病院による「病院説明会」を3月に実施するとともに、各病院が本校の学生向けに作成した「情報シート」や病院のパンフレットを校内の情報コーナーに配架し、情報提供を行っています。看護師国家試験合格率が就職率に直結するため、引き続き合格率向上を目指して取り組みます。評価としては、大項目の平均は、「3.7」であり昨年度の「3.5」を0.2ポイント上回る結果となりました。これは小項目の全体的な上昇が影響していると考えます。市内医療機関への就職者が5年度は98.6%であり昨年度と同様



でした。しかし、辞退した学生などもおり、就職に向けての動機づけ、不安の解消なども今後の課題と考えます。

【今後の改善方策】

学校の設立理念である「地域医療に貢献できる看護師の育成」に向けて、国家試験合格率が100%になるように支援をするとともに、横浜市内の医療機関に全員が就職するよう取組みを進める必要があります。本年度はLMS(学習管理システム)を効果的に使用して成績格差の是正に努めたいと考えます。また、授業方略についても「アクティブリコール」を意識した取組みを積極的に取り入れていきたいと考えます。

入学時の学力・意欲分布を把握するために実施している「基礎力リサーチ」を、引き続き、初年度教育に活用していきます。また、成績低迷者を早期把握し、LMS を活用した低学年からの学習支援、国家試験対策を強化します。

ディプロマポリシーの達成度の評価として、「卒業時調査」「卒業生調査」等を継続して実施し、教育活動に活かしていきます。

中項目	小項目(指標)		評価
就職率	25	就職率の向上が図られているか	3.9
資格・免許の取得率	26	資格・免許取得率の向上が図られているか	3.9
卒業生の社会的評価	27	卒業生の社会的評価を把握しているか	3.4
平均			3.7

5 学生支援

【総括(実施内容)と課題】

就職等進路への支援は、進路ガイダンスの実施、就職した卒業生からの情報提供、運営法人である横浜市病院協会会員病院情報の閲覧コーナーの設置をしています。

学生生活への支援は、本校独自の奨学金等制度(奨学金:限度額を5万円/月から7万円/月に増額修学生活資金:限度額6万円/月)や、高等教育の修学支援新制度の認定及び専門実践教育訓練校の指定を受けています。

健康管理については、定期健診、インフルエンザワクチン予防接種、HB ワクチン接種、及び入学時には4感染症抗体検査を実施しています。また、学生相談室を設置し、公認心理士によるカウンセリングが受けら



れるように体制を整えています。相談室だよりの発行やワークショップ等、カウンセラー発信の取り組みも行っています。

学生寮については、独自に所有はしていませんが、横浜市脳卒中・神経脊椎センター職員宿舎を利用できることとなっています。

課外活動に対する支援は、自治会主催の新入生歓迎会や交流会をしています。また、ボランティア部、茶道部、手話部が活動しており、特にボランティア部は地域の要請を受け、対外的な活動にも積極的に参加しています。

保護者との連携については、入学式や宣誓式への参加後に保護者会を開催し、情報共有の場としています。

卒業生については同窓会を組織し、連絡ルートを確保しています。また、一部の科目においては、卒業生に外来講師として授業を受け持ってもらっています。

なお、退学率は5.9%(2年度 2.1%、3年度 2%、4年度 1.3%、5年度 3.3%)と増加傾向にあります。進級率は1年生 84.5%(5年度 90.2%)、2年生 79.5%(4年度 90.5%)と低下傾向にあります。これらのことから、評価は大項目は「3.6」ポイントと昨年度同様でしたが、中項目では「中途退学への対応」が 0.6 ポイント下がりました。全体には 3.0 ポイント以上の評価を維持しています。

【今後の改善方策】

学生が安心して学生生活を送ることができるように、健康管理、感染症対策等に向けた指導と情報提供、環境整備を継続していきます。その上で学生が生活・学習上で困ったことなどを自由に相談できる環境を整えること、教員、保護者等との連携を図ることにより、精神的な落ち込みや心身の不調などの問題を抱える学生にも早めに対応していきます。早期に学力、精神面、生活状況等の問題を把握していくことで、結果的に退学者及び原級留置者の低減を図るようになっていきます。また、引き続き、自治会活動、委員会活動、クラス活動、クラブ活動等を支援します。

中項目	小項目(指標)		評価
就職等進路	28	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3.8
中途退学への対応	29	退学率の低減が図られているか	3.0
学生相談	30	学生相談に関する体制を整備しているか	3.7
学生生活	31	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3.6
	32	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3.8
	33	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	3.0
	34	課外活動に対する支援体制を整備しているか	3.5
保護者との連携	35	保護者との連携体制を構築しているか	3.5
卒業生・社会人	36	卒業生への支援体制を整備しているか	3.3
	37	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3.6
平均			3.5

6 教育環境

【総括(実施内容)と課題】

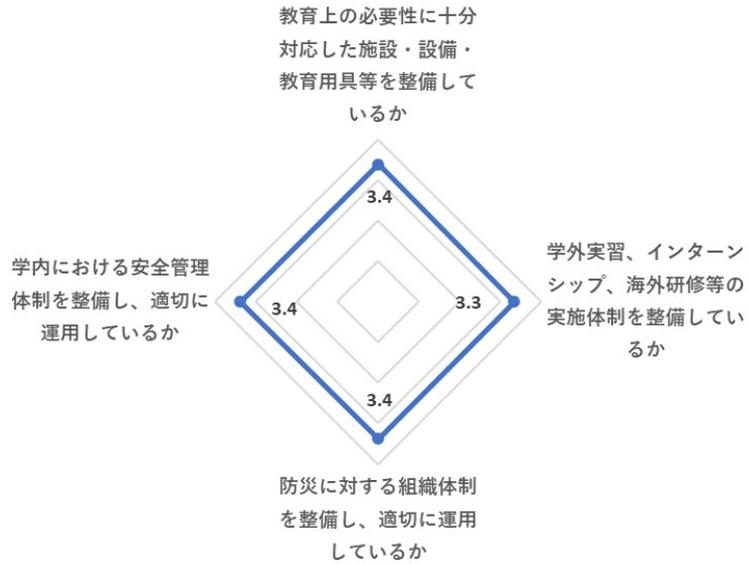
教育環境の施設・設備については、令和3年度に実施した老朽化調査及び中長期保全計画策定に基づいて、令和4年度から施設設備改修等工事を進め、空調設備の一新、調理実習室を研修室に改装するとともに、多目的トイレを設置するなどを行い、6年度で完了しました。

また、ICT 環境や図書室機能の強化にも取り組んで来ました。

学外実習では新カリキュラムに基づき病院以外の実習施設も確保し、実習評価や施設連絡会議等を通じて学習効果の向上に努めました。

防災面では、点検・訓練の実施、防災備品の整備、災害時対応のマニュアル化を進めましたが、近隣地域との連携強化が今後の課題です。学内安全対策としては、継続して保険加入や AED 設置、ハラスメント対策の規程整備を行い、安全・安心な教育環境の確保に努めました。

評価としては、大項目は「3. 4」で昨年度より0. 1ポイント上昇しました。



【今後の改善方策】

今後は、教育に使用する備品について必要性や優先順位を明確にし、予算の範囲内で計画的に整備を進めます。

学外実習では、病院や関連施設との連携をより強化し、実習後のフィードバック共有や病院説明会への協力を通じて、学生の学びと進路支援を充実させます。

また、防災対策としては、近隣地域と協力した災害訓練の実施を検討し、地域と連携した危機対応体制の構築を目指していくことも考えています。さらに、防災マニュアルや備品の見直しを継続し、より実効性のある安全管理体制を整備していきます。

中項目	小項目(指標)		評価
施設・設備等	38	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.4
学外実習・インターンシップ等	39	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3.3
防災・安全管理	40	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.4
	41	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3.4
平均			3.4

7 学生の募集と受入れ

【総括(実施内容)と課題】

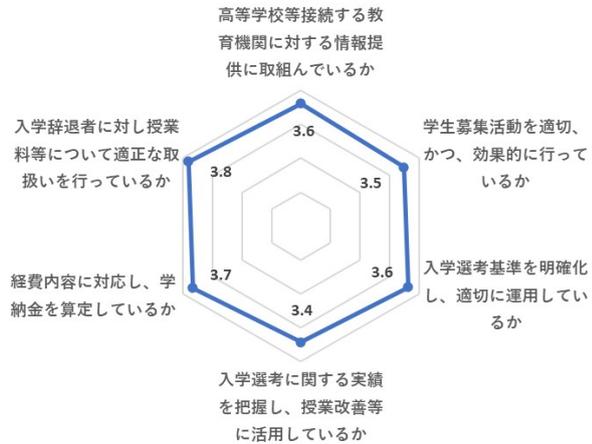
学生の募集については、「学校案内」「募集要項」を作成し、学校説明会及び学校訪問を実施しました。また、県内高等学校、予備校、会員病院、ハローワーク等に送付し、配布を行っていただいています。

学校説明会を8回及び個別の説明を実施し、343 人の方に参加をいただきました。また、県内26校の高等学校に個別訪問による説明を行い、ホームページやSNS(インスタグラム)、5年度に作成し直したスマートフォン用のホームページを活用した発信を行いました。

結果として、7年度入学予定者は79人を確保することができました。

入学選考に関しては、筆記及び面接を行い、面接では、個別質問を中心に、共通質問も用意し、学習に対する意思・意欲、看護師としての適正があるかを審査しました。合否判定については、入試委員会により決定するなど公平な選抜を実施しました。

入学金や授業料等については、県内の民間看護学校と比較すると、低額となっていることから適正な水準を維持していると考えます。評価については、昨年度から0.1ポイント下がり「3.6」でした。項目によって変化はありますが、ほぼ適切となっています。



【今後の改善方策】

受験生の確保に向けた募集活動については、学校の特徴(強み)を明確に打ち出したり、学生目線の情報を掲載するなど、学校案内やホームページの刷新が必要と考えます。

また、社会人の受験生確保として、社会人が多い本校の特徴や、「専門実践教育訓練給付金」制度の対象校であることを、よりアピールするとともに、看護師を志す社会人の背中を押すような入試制度の試み、社会人が情報を入手しやすくなるような広報活動を進める必要があります。

中項目	小項目(指標)		評価
学生募集活動	42	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3.6
	43	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3.5
入学選考	44	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3.6
	45	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3.4
学納金	46	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3.7
	47	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	3.8
平均			3.6

8 財務

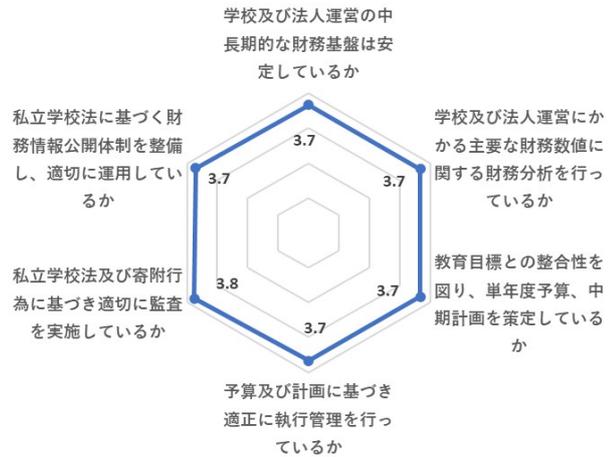
【総括(実施内容)と課題】

学校の財務については、公益社団法人の会計により、学校としての予算、決算を明確にしています。会計処理については、決算において、横浜市及び法人の監査等を実施し適正執行を確認しています。

学校運営の事業経費については、学生からの入学金、授業料、施設管理費等及び神奈川県・横浜市からの補助金等により賄っています。

30年を越えた施設・設備の大規模な改修等工事について、横浜市、神奈川県からの補助を受けて、4年度から実施し、6年度に完成しました。将来的に健全な財政運営を行うために、施設・設備の老朽化及び長期保全に対応する目的で、3年度制定した「学校環境整備積立預金取扱規程」により、着実な施設・設備等の修繕・更新に向けた源資の確保が課題となります。

評価については、職員会議等で予算・決算等を説明し、共有化を図っていて、前年度と同様に「3.7」となりました。



【今後の改善方策】

ここ数年顕著に看護師志望の専門学校進学者が減少しており、本校の受験生も激減しています。また、入学後、進路変更により本校を退学する学生もいます。学生数が定員の240名を確保できない状況は、財政的な面から学校運営を難しくすることから、受験生確保の取組みは急務となっています。

30年を迎える建物で安定して学校運営を行うためには、計画的な保全の実施は欠かせません。そのためには、計画的な財源確保により、3年度に策定した中長期保全計画に基づき実施していくことが必要となります。また、ビルの中の学校という限られたスペースの中で、変更されたカリキュラムに合わせて施設・設備の改修工事を行うことも魅力ある学校としていくために必要なこととなります。

中項目	小項目(指標)		評価
財務基盤	48	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3.7
	49	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3.7
予算・収支計画	50	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3.7
	51	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3.7
監査	52	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	3.8
財務情報の公開	53	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	3.7
平均			3.7

9 法令等の遵守

【総括(実施内容)と課題】

法令や看護専門学校設置基準等を遵守するとともに、法人の事務処理規定に基づいて、適正な学校運営を行っています。

また、個人情報保護やパワーハラスメント等の、適正な学校運営において必要な規程等については積極的に制定及び見直しを行っています。

学校評価については、内部に学校評価委員会を設置し、また、外部委員をお招きしての学校関係者評価委員会を設置し、委員会での検討結果を受けて、学校運営の改善をPDCAにより実施しています。

評価については、昨年度と同じく「3.8」となり、ほぼ適正との評価を得ました。これからも、教職員及び学生が共通の理解のもと、適切な学校運営につなげられるようにしていきます。



【今後の改善方策】

外部委員を招いての「学校関係者評価委員会」及び「学校運営会議」もⅢ期目(5年目)が開始することとなります。各委員からのご意見は学校運営にとって、貴重なものであることから、ご意見を踏まえて改善を進めることで、これからも適切な学校運営を推進します。また、時代の要請に合わせた、規程等の制定または見直しを積極的に実施し、学生にとって学びやすい環境を整えていきます。

中項目	小項目(指標)		評価
関係法令、設置基準等の遵守	54	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3.6
個人情報保護	55	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3.7
学校評価	56	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.8
	57	自己評価結果を公表しているか	3.9
	58	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3.8
	59	学校関係者評価結果を公表しているか	3.8
教育情報の公開	60	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3.8
平均			3.8

10 社会貢献・地域貢献

【総括(実施内容)と課題】

施設設備改修等工事により、外部の方にも使っていただける施設環境が整っているため、近隣の施設や団体が、活動の場や事業の実施場所として利用しています。区内の老人福祉センターの出張講座には、教員の月1回程度の派遣を継続しています。学生は横浜マラソン救護ボランティアとしての参加や、実習病院のイベントへの参加など、ボランティアを中心に積極的に活動を実施しました。横浜市主催・県ナースセンター委託の「復職支援研修」と「復職後支援研修」を2日間実施し、2名の教員が講義や演習を実施しました。

評価については、0.1ポイント減少していますが、ボランティア活動等を継続して実施できており、ほぼ適正との評価を得ています。

【今後の改善方策】

地域や社会福祉施設等、ボランティアを必要としている状況の把握と、活動状況の情報発信を行いながら、可能な活動を引き続き継続して進めていきます。

中項目	小項目(指標)		評価
社会貢献・地域貢献	61	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.7
ボランティア活動	62	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.5
平均			3.6